

第23号

本小の教育「授業改善研」

特支互授

◎本小授業改善「主体的・対話的な深い学び」

今回は、特別支援チーム（ステップ1組、2組、はばたけ）、授業名「自立活動」である。

- ① 9月09日（水）1校時目 仲程 彩 先生 / 授業名〔自立活動〕
- ② 9月10日（木）1校時目 玉城 護統 先生 / 授業名〔自立活動〕

彩先生は、新任特別支援学級担任研修の一環として、護統先生

は、肢体不自由クラスの現状を共有し、インクルシブ教育の協働研修に「つなぐ」ものでした。

■特別支援（自立活動）「仲程 彩、玉城 護統」[互見授業]



■【ステップ2】「仲程 彩」



■【インクルシブ教育】

■「彩」先生の「特支、合同自立活動」

- 本時の授業は「聞くトレーニング」である。
- 【本時の目標】としては、
 - ①「手中して聞く、意識を高めること」
 - ②「聞いた内容を、書いたり、伝えたり、」
 - ③「ルールや約束」を守り、仲良く活動する
- 【合理的配慮の視点】から、指導の工夫は？
 - ①「学習の見通しを持つ為の流れの提示」
 - ②「意欲づけの為、発達段階の課題設定」

【導入部分】

- 「聞いて伝えよう」 ※ ゲーム形式で
- 「命令ゲーム」 ※ 楽しそうに展開
- 「ナンバー記憶」 ※ していた。
- 「伝言クイズ」 ※ どのゲームも

先ずは、「聞くこと」が大切であり、そして伝えることへとトレーニングは展開した。

【活動の振り返り（おわり）】

- どの子供も本日の「自立活動」の学習には、満足のいく評価・反省、振り返りであった。
- 「知的」「情緒」「肢体」の3クラスが合同で自立活動を行えるようになった事に感謝。
- 益々、「チーム特支」として団結して欲しい

■【はばたけ】「玉城護藤」



■「護統」先生の「特支自立活動」授業

- 本時の授業は「触って感じよう」である。
- 【本時の目標】として
 - 身体の感覚と土台をはぐくむこと。
 - <4つの環境の把握>
 - ①「保育する感覚の活用に関すること」
 - ②「感覚や認知の特性の理解と対応に」

【授業の流れ】

- 色々なものを iPad で見せて、触った時の感触のイメージを発表しあう。
- 小麦粉の感触を予想させ、直接触れさせる
- 風船にロートを差し込み、小麦粉を入れる
〔支援〕風船の口の中にロートを差し込みづらそうにしていたら、手助けをする。
- 風船に小麦粉を入れたら、風船の口を結ぶ。
〔支援〕風船の口を結べないようであれば、一緒に結んであげる。

【授業の終末】

- 小麦粉を直接触った時と風船に入れたときの感触を比較させ、感想をまとめる。

【感想】始めにスキルTで、「紙風船パレー」

- 【紙】：優しく、丁寧に、壊さぬ様、気遣い
- 【パレー】：相手の手の範囲へ、打ちやすい所

【感想】 「特別に支援が必要な子供達」の「未来予想図」を確り描くこと...。 その「見通し」を持つ！

- 「人間関係の形成」⇒ 他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにする事が大切だ
- 「身体の動き」⇒ 日常生活に必要な基本動作（食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理）を
- 「コミュニケーション」⇒ 各個々の状況に応じて、興味・関心の程度等、表情や身振り、意思のやりとり
- 「1年生～6年生の全ての学年にまたがるが、2、4年後、中学校では、卒業後は、将来は、に目を向け」
- 「子供達が将来、「衣食住」に困らない、『生き抜く力』を、体得するように、将来を見据えた教育が必要」
- 「保護者との連携を、より強化する事が、学校の手を離れた時、親子で共に頑張れるスキルを体得させる」
- 「8050（社会問題）、”親80代、自立しない子供50代”、未来の社会問題を解消する手立ては、今！」



校長より

